

【様式①】令和3年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岐阜西中学校

校長名 村田 明治

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールの機能等を活用し、地域の中で子どもが活躍できる場を設定する ○くいじめ未然防止のための4つの約束を全職員が常に意識し、チームで取り組む 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で地域行事が中止となったが、土曜授業時に地域貢献活動を2回実施できた。また、CVSの生徒を中心に朝の時間を活用し学校周辺の道路などのゴミ拾いを行った。 ・校長の指導のもと、いじめ対策監を中心にいじめ未然防止の取組や事案が起きた場合の即時対応などができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の朝のごみ拾いを汚れも気にせず一所懸命に取り組んでいる姿がよい。 ・あいさつ標語等、小中であいさつを重点に置いた活動を続けることは、とても意味のあることである。 ・「いじめ対策監」の存在が非常に大きくネットワークのよさが見ていて分かった。安心していじめの取組を任せられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制限されてはいるが、地域の中で中学生が活躍できる場をできる限り設定するとともに、地域貢献活動や地域行事などに積極的に参加できるように働きかける。 ・「いじめを考える日」をもとにした年間指導プランを作成する。また、生徒会を中心に「岐阜西中学校人権宣言」を策定する。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○社会に視野を向けた知識や考え方を身に付けさせるために朝のコラム学習を継続的に実施する ○新型コロナウイルス感染症対策には万全を期しながらOUTPUT型授業を積極的に取り入れたり、基礎学力の定着を図る取組を行ったりする 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の時間を活用し、継続的にコラム学習に取り組み、社会に視野を向けたり、考えを文章でまとめる練習に取り組んだりした。 ・コロナ禍で十分な取組ができなかったが、身に付けた知識・技能を表現したり、活用したりできるようにOUTPUT型授業を意識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コラム学習」は、勉強以外の社会に対する興味・関心をもつ取組としてとてもよいと思う。 ・コロナ禍の対応にとっても苦慮しているが、頑張っている様子がよく分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の時間を活用した「コラム学習」は継続しつつ、基礎学習の定着のためeライブラリに取り組む時間を確保する。 ・OUTPUT型授業を継承するとともに、各教科や学級で計画的な家庭学習の進め方を例示し、学習状況に応じて個別指導を行う。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○校区の小学校と定期的な情報交流をし、小中一貫の学習・生活習慣作りを継続する ○新型コロナウイルス感染症対策には万全を期しながら、出前授業や講話など、地域の人材等を広く多彩に活用する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職同士での不定期の情報交流や生徒指導主事同士の月1回の情報交流を継続できた。また、今年度も小学校での出前授業を3月に実施する予定である。 ・職業講話など様々な活動で外部講師を依頼することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の小学校と交流がなされ、情報を共有されていると感じた。 ・情報交流は相乗効果を生むので続けてほしい。 ・校長同士が校区の小中学校の現状を理解し、自校の教育活動へ生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で子ども同士の交流が難しいが、小中合同あいさつ運動を復活させたり、タブレット端末を活用した交流を行ったりする。 ・土曜教育活動や職業講話などで、コミュニティ・スクールの機能を生かして、地域の方々を積極的に活用した取組を推し進める。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> ○マイタブレットを積極的に活用した生活・学習スタイルを構築する ○会計業務のシステム化と計画的運用により、処理を随時見直す 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分散登校時や臨時休校時等にも、タブレット端末を活用し、学びを止めることなく授業を進めることができた。また、普段の授業での活用方法についても学習指導部からの提案や活用方法について交流を行うことができた。 ・事務職員を中心に、会計に関する業務の効率化と公平化を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のタブレット端末の使いこなし方や文書作成のクオリティが高く、社会に出ても十分に使いこなせると思う。学校でしっかり活用されていると感じた。 ・タブレット端末が有効に活用されていることが分かった。使い方の幅が広がっていくと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末をオンライン学習で活用し学びを止めないという視点から、OUTPUT方の授業に有効に活用するための方法など、普段の授業にどの教科・どの先生も活用できるようにする。 ・会計業務を更に見直しをもって、計画的に進める。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と共に新型コロナウイルス対策を意識した取組を積極的に行う ○命を守るための防災減災に関する実践的な研修や訓練の設定をする 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策については、国や県などの方針・指導をもとにその都度必要な対応を行ったり、啓発活動を行ったりして感染防止への意識を高めることができた。また、生徒の委員会活動においても全校生徒への意識化を図ることができた。 ・大学の先生を講師に2年生対象の減災・防災に関する研修を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な災害に対応できるように常に啓発が大切である。 ・学校のコロナ対応はスピーディで正確で丁寧であると保護者メール等で感じる。 ・感染対策がしっかりできていることが分かった。 ・小中合同もしくは、小学校区での防災訓練を計画していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校が別々に行っていた「引き渡し訓練」を校区で同一日に実施し、災害時の実践的な訓練や研修に繋げる。 ・2年生のDIG学習を継続するとともに、災害が起きる前のリスクマネジメントを教える防災教育を増やす。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/gifunishi-j/>